

(別紙2) 第6次塩竈市長期総合計画進捗報告会 自由記載

1.しおがま未来創生プロジェクトについて

1	塩釜人は産業資本家排出地域なので、ここが大事な視点（人口増にも周りに回って）地域づくりは人づくりに始まり人づくりに終わるので、もっともっと人に焦点をあててほしい。
2	未来創生政策について、政府の地方創生政策も、この5年間で相当変化しており、具体的には、コロナ禍のデジタル対応から、地方創生2.0へと移り変わっている。 この間、塩竈市においては、特にインフラ（庁舎等）の設置に関する重要な決断がなされてきた。 人口減少に加えて、財源減少を念頭に置いた持続可能、かつ楽しめるまちへ向けた政策を構築する段階にきている。 塩釜は、商業（小売り）、観光に強いイメージが県民にも浸透しており、これを強みにしつつ、あらゆる未利用資源のリストアップを行い、民間活力の導入可能性の検討を行うことがポイントとなる。
3	市民課の「協働まちづくり提案事業評価委員会」の委員もさせてもらっているが、市内の各町内会やボランティアグループから、多彩で意欲的な提案が寄せられている。 注目するのは、例えば震災被災者や外国人研修生らも巻き込んだ交流の広がりや、高齢者から子どもまで老若男女隔てない世代間交流の取り組みだ。 まちづくりの土台となるのは、「ひと」（人材）と「場」（地域）。歴史ある港町の塩釜には、代々引き継がれてきた開放的で、地に足のついた“草の根活動”が健在に思える。 そんな塩釜の「底力」を盛り立て、掘り起こし、すくいあげるような施策を進めてほしい。
4	様々な事業等の報告及び100の暮らし関連事業について拝見すると、横断的な取組が多く見受けられる。これはしおがま未来創生プロジェクトにおいて重要な点であると考えため、とても良い傾向だと思う。通常業務及び予算等の関係を考えてみると、ハードルは高いかと思うが、どうかこのまま、横断的な取組を増やしていただきたい。 また、人口推移等を考えると、これまでの推定よりも減少がゆるやかである点やその他成果指標についても達成が増えていくことはとても素晴らしいことだと考える。 プロジェクトのより一層の達成について考えると、例えば100の暮らし等については、役所だけでは達成が難しいものも多いため、どうか市民が当事者と思えるような広報活動等を行い、塩竈市が一丸となってプロジェクトの達成を目指せるようにしていただけると嬉しい。

2.塩竈100の暮らし・成果指標について

1	市民目線があり、おもしろい。他自治体でも紹介。 個別事業に紐づけてほしい。
2	・100の暮らしは市民目線の指標 ・成果指標は行政目線の指標 と異なる視点が重要と考える。 未来創生プロジェクトは、協働、共創による挑戦的指標として、今後の中期の段階では指標の見直しも必要な時期である。
3	7割以上が事業化され、着実に実施されているようでとても心強い。ただこの取り組みは塩竈らしい暮らしを具体的に提示したこと自体がユニークで、意義があることなので行政側の実施率などの数字にこだわる必要がないと思う。この塩竈100の暮らしをイラスト付きのパネルで公共施設などに広く掲示。市民に繰り返し、思い出してもらい、身の回りで塩釜らしい生活や暮らしを再発見、再認識する機会を増やしてはどうか。塩釜独自の歴史と風土を背景に、世代を越え、世代を引き継いで、育んできた塩釜の底力をさらに盛り立てる施策を期待したい。 全体の約半数が8割以上、指標を達成している状況は高く評価したいが、これも各事業が+preだけ市民に届いているか役立っているかが大切なので数字だけにとらわれない。個々の指標で注目するは、プラス面では1-3（待機児童数）等である。
4	昨年度と比較すると目標達成されている項目が多く、進捗としては順調であると考え。一方、数値目標があるため、達成するための取組を行っていただいているが、達成するために行ったことと同様に、達成していない理由の分析は、長期総合計画の最終的な達成に向け、非常に大切なデータであると考えため、どうかそちらについても十分行っていただきたい。 また、達成度として大きな記載いただいているが、達成まで時間を有するものもあると考えため、数値目標の達成のみならず、前年度等との比較などで、未だ達成はできていないが、達成に向け、どのようなことに取り組んでいるのかについても示していただけるようお願い申し上げます。

3.個別事業

No.1 [分野1] 学校規模の適正化の検討事業

1	・NPO法人の仕事づくり ・野心的な教育のきっかけづくり ・スクールバスと観光の合わせ技
2	公共施設の配置適正化計画においても、議論されていた課題である。一方で、学校に手を入れることは総論賛成各論反対となる。プロセスを省かず丁寧に合意形成する必要がある。
3	客観的な状況から適正化＝統合はやむを得ないと思う。ただ、総論賛成各論反対になりがちなデリケートな問題だけに率直で丁寧な説明（説得）が必要。できる限りはやく市の案を示してほしい。その際は統合後の課題（地域バランス、安全、防災）やネーミングに配慮。
4	現在の少子高齢化社会において、子どもたちを大切に、子育て等に対してより良い環境を提供することは最優先事項であると考え、学校規模の適正化を検討することは非常に重要だと考える。また、それに伴い、活用できる土地が生まれることは他の諸課題においても有意義であるため、円滑に進むように望む。

No.2 [分野2] 塩竈市立病院外来等リニューアル事業

1	・ハード整備の効果を考えてほしい。診察待ちの過ごし方ではwifiの整備やコンビニ（買い物）の配置の工夫等が必要。
2	施設の老朽化に対して、部分的なリノベーションは有効である。
3	通院している患者としての個人的なひいき目ではなく、今回のリニューアル事業は適切だと思う。些細なようでもかゆいところに届く細かい配慮が利用者には嬉しく、市全体のイメージアップにつながる。市立病院の良さは患者にやさしいアットホームな雰囲気。今後も運営に生かしてほしい。
4	説明時おっしゃっていた、最小コストで最大限の効果というものがきちんと達成されている認識である。また、現場で働く方の意見を取り入れる姿勢がとても良いと感じる。民間病院に頼るだけでは、安定した地域医療は望めないと考えるため、今後も地域医療体制の充実に対して政策を続けてほしい。また、今回は施設設備の充実の実施であったが、不足が見込まれる医療スタッフの確保という面で、医療スタッフが使用する（市民の目につかないところであっても）施設設備の充実にも目を向けていただきたい。

No.3 [分野3] 緑と憩い再生事業

1	・観光活用に加え、教育の活用も今後期待。 ・アンケートの考え方 ・植樹と統廃合のバランス配慮
2	長期総合計画の前段を知っているものとしては、この事業の成果は評価できるものである。
3	伊保石公園は良いロケーションと環境なのに未整備で、かねがねもったいないと思っていた。塩竈には海だけでなく、山も森も豊かに残っている。これに冒険の付加価値がつき、収益までを生むならさらに展開が広がる。入場料が若干気になると時代か。公園植樹はどんどん広げてほしい。
4	伊保石公園再整備事業においては、民間事業を誘致して行うという、これまでなかった方法での事業実施を大変素晴らしいと感じた。市民が快適に住み続けるまちとしての事業ではあるが、それに留まらず、観光及び移住等の後押しにもなり得ると考えるため、計画達成の事業としては十分に妥当なものであると判断する。

No.4 [分野5] ふるさと納税事業

1	・人材（起業）育成と産業クラスターの意図的な活用を意識してほしい。
2	計画を達成するにも、資金が必要で強化すべき点は理解できる。計画中期見直しでは成果目標に決定してもよいのでは。
3	「時代の要請」とはいえ、寄付の件数、金額ともに急増しているので、同慶の至り。市財政、地場産業の育成、地域イメージにもメリットは大きい。塩竈の人気返礼品は鮭と蟹とは少し意外。逆に言えば、伝統の鮭をはじめ、ブランドの伸びしろが大きい。頑張ってください。
4	ふるさと納税においては、ここ近年で大変魅力的な返礼品を提供できていると感じる。また、納税による市収入の増加だけでなく、これまで塩竈市と縁を持たなかった方々との交流という意味でも非常に効果的であると考え。ぜひ今後の目標としては、収入増加とともに、返礼品送付時に塩竈市の案内及び納税を活用させていただいた事業の報告案内等を封入するなど、塩竈市を訪れたいと思っていただけるような工夫を凝らしていただきたい。

No.5 [分野8] 浦戸再生プロジェクト推進事業

1	・離島生活の再生「島の暮らし」にもっと視点を持ってよいのではないか。
2	中期見直しの際、戦略の再検討をすることが必要と見る。一方、その間の地道な取り組みは高く評価できる。
3	ハード面、ソフト面ともに、多彩な事業実施を率直に評価したい。離島振興に即効薬は難しく島民と一体になった地道な取り組みしかないと思う。桂島の集団移転跡地の芝生化に注目。隠れ名所的なステキな海浜公園になる気がする。海苔、牡蠣などの島の特産品開発や販売に寄与する施策をぜひ。
4	事業も目的として、交流人口の拡大ということであった。そのための取組としては創意工夫されていると感じる。事業としては「浦戸再生プロジェクト推進事業」ということなので、せっかくならば、交流人口増加とともに、移住希望者が生まれることを目標として、島民の生活を支える取組への比重も増やし、交流人口増加と同一程度の熱量で取り組んでいただければと考える。移住希望者を生むために、まず知名度及び交流人口の増加が必要かと思うため、両輪という形を検討いただきたい。